

「体験学習の手引き」(旧神奈川県立青年の家、平成 10 年発行)の掲載について

最近の子ども・若者は、生活体験、社会体験、自然体験などの実体験が不足していると言われます。そして、地域コミュニティの希薄化、家庭の経済状況による体験活動の格差といった課題により、状況はさらに厳しくなっています。

文部科学省から発表された「青少年の体験活動の推進に関する調査研究」(令和2年)では、「小学生の頃に行った体験活動などの経験は、長期間経過しても、その後の成長に良い影響を与えていることがわかった」とあり、子どもが体験活動に関わることは、健全な成長にとって大変重要なことであると言えます。全国的に、自治体、企業、団体等様々な組織において、子どもの体験活動が推進され、本県でも神奈川県青少年指導者養成協議会(事務局、神奈川県立青少年センター指導者育成課)において、子ども・若者の体験活動の充実を目指して活動しています。

本資料は、平成 10 年に当時の神奈川県立青年の家が「体験学習の手引き～これからの青少年活動のために～」として発行したものです。これは 250 超ページにわたる資料で、レクゲーム、キャンプファイヤー、オリエンテーリング、登山、野外炊事といった活動の指導法がまとめられています。作成時は、県内の青少年団体、青少年施設等に配布され、子どもの体験活動の推進に大きく貢献しました。

この冊子が発行されてから年数が経過し、現在は支援・指導される皆様が入手することができません。それでも、時折「この冊子を手に入れることはできないか？」との問い合わせを受けることがあり、現代においても有効な指導マニュアルとして活用できるものとなっています。そこで、当ページにて公開し、地域で子ども・若者向け体験活動に尽力されている方々の参考となるよう、当時のままで掲載しました。この資料が、子ども・若者を対象とした体験活動推進の一助となるよう願ってやみません。

令和 7 年 3 月

神奈川県青少年指導者養成協議会